

H 2 9 年度 厚生労働行政推進調査事業補助金（慢性の痛み政策研究事業）  
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究  
分担研究報告書

山口大学ペインセンターの構築とカンファレンスシート導入に関する研究

研究分担者 田口 敏彦 山口大学大学院医学系研究科 教授  
研究協力者 鈴木 秀典 山口大学大学院医学系研究科 助教

研究要旨

山口県内に慢性疼痛治療の拠点となる山口大学ペインセンターを設立し、集学的治療を実践した。さらには県内の医療連携システムを構築し、ペインセンターを中心とする地域の医療システムを構築した。また全国に先駆けて、多職種にわたる慢性痛医療スタッフを育成するための痛み教育センターを設立し、医学教育を開始した。さらに患者評価の重要なツールの1つとなる、カンファレンスシートについて、山口大学病院で使用している電子カルテ内に直接導入し、日常診療における患者評価ツールとして常時使用するシステムを完成させた。また電子カルテ内のカンファレンスシートは、データを後利用する目的で、医療情報部からエクセルファイルの形でデータを回収し各種の統計解析などに使用することが容易なシステムも構築した。実際のカンファレンスシートを使用してデータ管理を行っている症例は現在 30 例程度である。

A．研究目的

山口県内に慢性疼痛治療の拠点となるペインセンターの設立を行い、地域の中心的な拠点センターとしての機能を確立させること。また実際に集学的治療を実践するなかでのシステム上の問題点を指摘し、これを研究班にて検討すること。また全国痛みセンターで今後使用するカンファレンスシートの初期導入を行い、実際の運用を行うことで、その問題点や改良点を見出すこと。

B．研究方法

平成 26 年から設立した山口大学ペインセンターのセンター化と標榜を行い、さらには地域の痛み医療に関する啓蒙・教育活動を進め、山口県内の慢性疼痛医療システム・病院連携システムを進める。またペインセンターでのカンファレンスにおいて、カンファレンスシートの導入を行い、患者評価を進める中でその利点と問題点を検討する（実際に電子カルテ内に導入しているカンファレンスシートは別紙。プリントアウトしたものを提示）（倫理面への配慮）

カンファレンスシートなどのペインセンターでのデータに際しては、山口大学 IRB への倫理審査提出を予定しているが、現時点では

具体的な患者データの利用や公表などはないため、倫理面での問題はない。

C．研究結果

山口大学ペインセンターでは、整形外科、ペインクリニック科、精神神経科・リエゾン科、理学療法士、作業療法士による集学的治療を実践している。山口大学病院内に 3 床のベットを持ち、地域や各科単独では治療困難となった慢性痛患者の診療にあたっている。隔週でのカンファレンスを行い、独立したユニットとして患者治療にあたっている。

カンファレンスシートについては、愛知医科大学学際的痛みセンターで使用しているものを基本として、使用しやすい形に改訂した上で、山口大学病院内の電子カルテ内に実際に導入した。カンファレンスシートは日常業務内での患者データの管理、カンファレンスでの記録、また多職種医療者の意見などのデータを総合的に記録してカルテ内に直接残すことが可能となった。現在はまだ使用はしていないが、後利用データとしてファイルを容易に取り出すことも可能なため、その利便性は高い。

山口大学ペインセンターにて集学的なユニットが治療介入を行い、カンファレンスを行

い、実際の治療を行った患者は、昨年度に引き続き、H29年度は約45人であり、その数は増加傾向にある。また、県内外を含めて、30件程度の慢性痛に関する講演を行い、痛み医療の啓蒙と教育をおこなった。山口県内では当ペインセンターは広く知られる存在となり、難治性疼痛治療に苦慮した際の紹介先として連携システムが機能している。山口大学ペインセンターを中心とする慢性痛患者の地域医療システムが確立しつつある。

また集学的治療を行う上で、多職種の医療スタッフに対する医学教育は我が国における最重要課題である。抜本的な問題解決のため、現在、山口大学に慢性痛医学教育センターを設置し、実際のカルキュラムを作成した上で、慢性痛に関する医学教育の普及と標準化を行い、全国レベルで展開している。

#### D．考察

山口大学ペインセンターでの慢性痛患者に対する集学的治療のシステムは確立しており、また山口県内においては、山口大学ペインセンターを中心とする地域医療連携が構築された。日常診療上は、患者・医療スタッフにとって、ともに診療を円滑化し、これまで対応困難であった慢性痛患者を実際に治療可能とし、約半数程度で治療の有効性を見いだすまでの治療成績を獲得できるようになった。大きな問題点は、診療報酬やコストを含めた本邦におけるシステム自体であるが、今後の改善に期待したい。

カンファレンスシートも、日常診療のツールとして、またデータの記録の観点から、電子カルテ内での管理と評価のツールとして日常診療に導入して運用をおこなった。今後はデータの公表などを含めて、このシステムを全国に展開していく必要がある。

#### E．結論

山口大学ペインセンターを中心とする山口県内の慢性疼痛医療の地域連携システムの構築に関する現状を報告した。患者評価の重要なツールの1つである、カンファレンスシートの導入と実際の運用について報告した。

#### F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

#### G．研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) Suzuki H, Ahuja CS, Salewski RP, Li L, Satkunendrarajah K, Nagoshi N, Shibata S, Fehlings MG. Neural stem cell mediated recovery is enhanced by Chondroitinase ABC pretreatment in chronic cervical spinal cord injury. PLoS One 2017;12(8):e0182339.
- 2) Mihara A, Kanchiku T, Nishida N, Tagawa H, Ohgi J, Suzuki H, Imajo Y, Funaba M, Nakashima D, Chen X, Taguchi T. Biomechanical analysis of brachial plexus injury: Availability of three-dimensional finite element model of the brachial plexus. Exp Ther Med 2018;15(2):1989-1993.
- 3) Kanchiku T, Suzuki H, Imajo Y, Yoshida Y, Nishida N, Taguchi T. Psychogenic Low-Back Pain and Hysterical Paralysis in Adolescence. Clin Spine Surg 2017;30(8):E1122-E1125.
- 4) 田口敏彦. 運動器における痛みとその対応. クリニシアン 2017;64(11-12):10-14.
- 5) 鈴木秀典, 田口敏彦. 【脊椎由来の痛みに対するインターベンショナル治療 up to date】非特異的腰痛の診断と疫学. ペインクリニック 2017;38(12):1543-1549.
- 6) 折田純久, 山下敏彦, 川上守, 牛田享宏, 田口敏彦, 紺野慎一, 高橋和久, 大鳥精司. 慢性腰痛患者における神経障害性疼痛スクリーニングの現状と限界. Journal of Musculoskeletal Pain Research 2017;9(1):82-88.
- 7) 鈴木秀典, 田口敏彦. 椎間関節性腰痛. Orthopaedics 2017;30(8):71-76.
- 8) 鈴木秀典, 田口敏彦. 【脊椎・脊髄疾患のニューロサイエンス】脊髄再生医療の

最前線：骨髄間質細胞を用いた脊髄再生。  
整形・災害外科 2017;60(5):713-719.

第 39 回日本疼痛学会. 2017.6, 神戸

## 2. 学会発表

- 1) 田原周, 鈴木秀典, 泉博則, 原田英宜, 森亜希, 樋口文宏, 小笠博義, 田口敏彦. 山口大学ペインセンターにおける集学的治療～リハビリテーション部での取り組みと治療成績～. Journal of Musculoskeletal Pain Research 2017;9(3):S97. 第 10 回日本運動器疼痛学会. 2017.11, 福島
- 2) 鈴木秀典, 寒竹司, 今城靖明, 西田周泰, 船場真裕, 田口敏彦. 慢性腰痛症に対する治療～CMAP モニタリング下後枝内側枝経皮的電気焼灼術～. Journal of Musculoskeletal Pain Research 2017;9(3):S56. 第 10 回日本運動器疼痛学会. 2017.11, 福島
- 3) 田口敏彦. 痛み教育の課題と将来展望. Journal of Musculoskeletal Pain Research 2017;9(3):S8. 第 10 回日本運動器疼痛学会. 2017.11, 福島
- 4) 鈴木秀典, 寒竹司, 田口敏彦, Ahuja Christopher S., Salewski Ryan P., Satkunendraraja Kajana, 名越慈人, Fehlings Michael G. iPS 細胞・間葉系細胞を用いた運動器再生医療 iPS 細胞を用いた慢性期の頸髄損傷治療. 日本整形外科学会雑誌 2017;91(8):S1674. 第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会. 2017.10, 沖縄
- 5) 寒竹司, 鈴木秀典, 西田周泰, 船場真裕, 田口敏彦. 脊椎・関節の痛みを科学する 椎間関節の痛み：特に椎間関節性腰痛について. 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 2017;61:205. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017.4, 福岡
- 6) 田原周, 鈴木秀典, 泉博則, 原田英宜, 森亜希, 樋口文宏, 綿貫俊夫, 関万成, 小笠博義, 田口敏彦. 山口大学ペインセンターにおける集学的治療～リハビリテーション部での取り組みと治療成績～. PAIN RESEARCH 2017;32(2):118.

## H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし